

新型コロナウイルスを恐れすぎない

新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。連日「新規感染者数最高更新」「〇〇人以上〇日連続」などと報道され、人々の不安は高まる一方です。県外ナンバーの排除やネット上での感染者の特定作業、医療従事者やその家族へのいじめ、営業している店舗への嫌がらせなどの差別事案もありました。

感染症に関する差別としては、日本では「ハンセン病」の問題が過去にありました。令和2年5月の本欄で紹介したように、大変な差別事案でした。国はハンセン病差別事案の調査を行い、「病気になった人を感染源として見ない。

『人』として処遇する」「『人権尊重』をもとに、『感染防止』を考える」ことが大切と結論付けました。2005年3月のことです。しかし、今回の新型コロナウイルスにおいては、この反省が生かされたのでしょうか。

日本赤十字社は、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」を発表しました。第1の顔は病気そのもの、第2の顔は「不安と恐れ」、第3の顔は「嫌悪・偏見・差別」です。このウイルスは見えない、分からないことが多く、われわれは強い不安や恐れを感じて振り回されてしまいます。この不安や恐れは人から人へ伝染します。不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激し、ウイルス感染に関わる人や対象を遠ざけて差別し、人と人との信頼関係や社会のつながりを壊してしまいます。そして自分が差別を受けるのが怖くて体調不良を感じても受診をためらい、結果として病気の拡散を招くそうです。病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながる。3つの顔は負のスパイラルでつながっているとされています。

これらの“感染症”を防ぐため、第1に「手洗い・咳エチケット・人混みを避ける」、第2に「気づく力・聴く力・自分を支える力を高める」、第3に「確かな情報を広める・差別的な言動に同調しない」ことが大切とされています。ウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いてないか、何かと感染症に結び付けて考えてないか振り返り、ウイルスに関する情報にさらされるのを制限して距離を置く時間を作ることも必要としています。

サーズ マーズ

調べてみると、新型コロナウイルスは重症化しやすいが、SARSやMERSより死亡率は低い、がんや心疾患・老衰、交通事故やインフルエンザで亡くなる人の数よりはるかに少ない、日本は他国と比べると感染者数と死亡者数がかなり少ないことが分かりました。これらは医療従事者の懸命な努力、日本の高い医療水準、国民の理解協力があつたからだと思います。

また、マスクは思った以上に感染防止効果があり、日本の生活様式も感染防止に役立っていることも知りました。我々には、新型コロナウイルスに立ち向かう術があると感じました。

医療崩壊など不安の高まる情報が多い中ですが、過度に恐れず、互いに労い敬意を払い、みんなが一つになって感染の負のスパイラルを断ち切りましょう。